

プレスリリース

開館記念特別展

# モディリアーニ

—愛と創作に捧げた35年—

2022年1月

## 大阪中之島美術館 開館記念特別展 「モディリアーニ —愛と創作に捧げた35年—」 2022年4月9日（土）～7月18日（月・祝）

アメデオ・モディリアーニ（1884－1920）は祖国イタリアで美術を学んだ後、21歳でパリに出て芸術のダイナミックな潮流に出会います。フォーヴィズム、キュビズムなど新しい芸術運動が展開するさなか、どの運動にも属さず独自の表現様式を築きました。モディリアーニは一貫して人物像の制作に取り組み、フォルムへの関心を追求し、モデルとなった人物の内面的な本質を捉えました。2020年に没後100年を迎えたが、今日なおその芸術に注目が高まり、作品が愛好されています。

本展は、2008年の回顧展以来、日本でモディリアーニの作品をまとめてご紹介する初めての機会となります。短い活動期の中から優れた作品を選びすり、モディリアーニ芸術の本質を探るとともに、各国で進められているモディリアーニ研究の現在をご紹介します。

本展ではさらに、モディリアーニと親交を深めた芸術家の作品も合わせて展示します。キスリングやパスキンなど、「エコール・ド・パリ」と呼ばれる外国出身作家や、新しい流れを生み出したピカソやセヴェリーニなどによる多様な芸術の土壤をご覧いただきます。モディリアーニは、パリ・モンパルナス地区で藤田嗣治をはじめとする日本人画家とも交流する一方、日本の美術界でもモディリアーニの没後に关心が高まり、大阪中之島美術館が所蔵する《髪をほどいた横たわる裸婦》は1930年代に日本へもたらされました。本展は、日本によるモディリアーニの受容についても考える機会となるでしょう。

モディリアーニと20世紀前期のパリで開花した芸術は、新時代の幕開けを迎える躍動感に満ちています。その豊かな醍醐味を、新たな船出を迎えた大阪中之島美術館で心ゆくまでご堪能ください。

AMEDEO  
MODIGLIANI

## 本展の見どころ

### 1.世界初公開の肖像画を含め、国内外のモディリアーニ作品約40点が集結

35歳で夭折したモディリアーニの作品は、それほど多くありません。本展では、フランス、イギリス、ベルギー、デンマーク、イスラエル、アメリカなどから選りすぐりを集め、さらに国内美術館等が所蔵する油彩画や素描などが一堂に会します。なかでも、スウェーデン生まれの伝説的ハリウッド女優、グレタ・ガルボが生涯にわたって愛蔵した《少女の肖像》は世界初公開となります。



《少女の肖像》  
アメデオ・モディリアーニ  
1915年頃、個人蔵

### 2.大阪中之島美術館所蔵の裸婦像と同じモデルを描いた作品が来日、大阪で初めての再会



大阪中之島美術館の約6000点のコレクションを代表する《髪をほどいた横たわる裸婦》。本展では、この作品のモデルと同一の女性を描いたアントワープ王立美術館（ベルギー）所蔵の《座る裸婦》が来日、大阪で初めての競演が叶います。



(左)  
《座る裸婦》  
アメデオ・モディリアーニ  
1917年、アントワープ王立美術館  
photo: Rik Klein Gotink, Collection KMSKA - Flemish Community (CC0)

(右)  
《髪をほどいた横たわる裸婦》  
アメデオ・モディリアーニ  
1917年、大阪中之島美術館

### 3.モディリアーニとともに活躍した芸術家の作品を集め、大阪・中之島に「エコール・ド・パリ」の空間を再現

20世紀前期のパリで活動したモディリアーニは「エコール・ド・パリ」の一員として、ピカソやシャガール、藤田嗣治などと同世代です。本展では、そうした仲間たちの作品も多数紹介、彼らの交流をご紹介します。パリに吹いた新しい風とともに、モディリアーニ芸術が成立する軌跡をたどります。

《ポスターのある風景》  
パブロ・ピカソ  
1912年、国立国際美術館  
©2021 - Succession Pablo Picasso - BCF(JAPAN)



## 【各章と作品のご紹介】

### プロローグ:20世紀初頭のパリ

モディリアーニが過ごした20世紀初頭のパリは歴史的にどのような時代だったのでしよう。華やいだベル・エポック（“良き時代”などを意味するフランス語。19世紀末から第1次世界大戦が勃発するまでのフランスの繁栄を表す）の時代から一転して、フランスは1914年から1918年まで第1次世界大戦の渦中に置かれます。戦時下で苦しい市民生活を強いられるなか、芸術家たちは苦難に耐えて制作しました。そうした時代背景をポスター作品やパネル展示によってご紹介します。

### アメデオ・モディリアーニ

## AMEDEO MODIGLIANI

1884年7月12日、イタリア北西部の港町・リヴォルノで生まれる。14歳頃に絵を学び始め、フィレンツェとヴェネツィアで美術学校に通う。1906年、21歳でパリに移り、翌年サロン・ドートンヌ（秋にパリで開催される展覧会。若い芸術家の作品発表の場であり、新しい運動が誕生する機会となった。フォーヴィスムが生まれた展覧会として知られる）に初出品。1910年頃から彫刻の制作に集中するとともに「カリアティード」の連作を描く。1914年頃には彫刻を断念し絵画制作に戻る。第1次世界大戦では兵役に志願するも健康上の理由で却下。1917年、画商ズボロフスキと契約を結び、肖像画に加えて裸婦像の連作に着手、同年12月、生前唯一の個展をベルト・ヴェイユ画廊で開催した。1918年、戦火を逃れて恋人ジャンヌ・エビュテルヌとともに南仏に滞在、1919年パリに戻り制作を続けるが、1920年1月24日、結核性髄膜炎のため、パリにて35歳で死去。



### 第1章:芸術家への道

故郷イタリアからパリに到着したモディリアーニは、セザンヌなどの作品に影響を受け、キュビズムやフォーヴィスムなど新しい表現に触発されます。さらに、他の芸術家と同様にアフリカ美術にも魅せられ、この時期は彫刻とカリアティード（古代建築に用いられた女性の姿を模した柱）の制作に没頭しました。本章では1913年頃までの初期作品を、彫刻制作のきっかけともなったブランクーシ作品やアフリカの仮面などと合わせて取り上げます。



(左)  
《カリアティード》  
アメデオ・モディリアーニ  
1911-13年、愛知県美術館

(右)  
《接吻》  
コンスタンティン・ブランクーシ  
1907-10年、アーティゾン美術館

## 第2章:1910年代パリの美術

モディリアーニは異国出身者の総称「エコール・ド・パリ」の仲間ですが、当時のパリは新しい美術が次々と生まれる刺激的な芸術都市でした。モディリアーニは仲間と豊かに交流し、文学者とも親交を深めます。本章ではピカソ、シャガール、ステインなど、パリで活躍した芸術家たち25名の作品を集め、モディリアーニとの関わりを中心にご紹介します。



《ポスターのある風景》  
パブロ・ピカソ  
1912年、国立国際美術館  
©2021 - Succession Pablo Picasso - BCF(JAPAN)

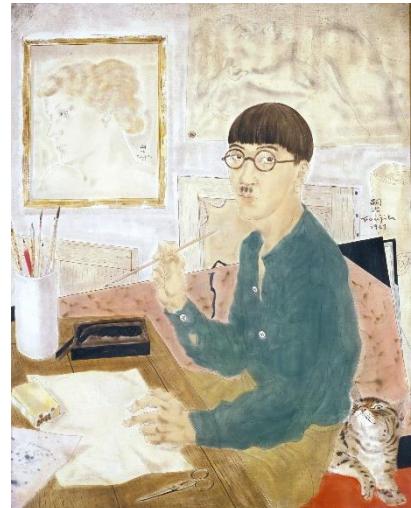


《町の上で、ヴィテブスク》  
マルク・シャガール  
1915年、ポーラ美術館  
©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021, Chagall® G2722

### 特集：モディリアーニと日本

パリの共同アトリエ「シテ・ファルギエール」でモディリアーニと日本人画家との間に交流が生まれます。なかでも藤田嗣治とは友情で結ばれていました。日本で初めてモディリアーニ作品が紹介されたのは没後の1921年。次第に評論も増え、モディリアーニをモデルにした小説の翻訳を通じて、脚色を帯びた彼の生涯が日本の若い芸術家たちを刺激しました。ここでは、日本とモディリアーニの関係を作品と資料によって解説します。

《自画像》  
藤田嗣治  
1929年、名古屋市美術館  
©Fondation Foujita/ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021 G2722

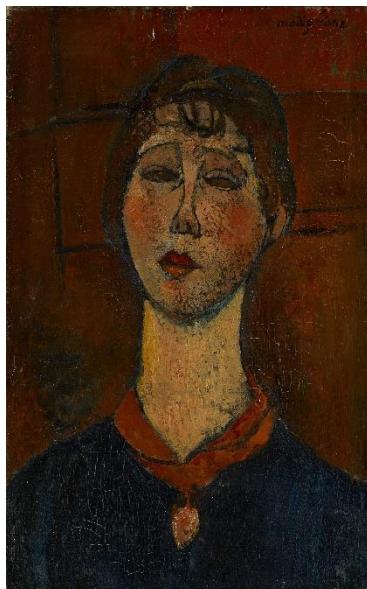


### 第3章:モディリアーニ芸術の真骨頂 肖像画とヌード

彫刻から絵画へ復帰したモディリアーニは肖像画を次々に描き、絵画表現を成熟させていきます。モデルとなったのは友人や知人、恋人らでした。1917年には画商ズボロフスキーの勧めで裸婦の連作に取り組みます。パリと南仏でこの時期に制作した作品群にはモディリアーニ芸術の真価が凝縮されています。最終章では、日本初公開となるバーゼル美術館（スイス）所蔵の肖像画をはじめ、珠玉の作品群を堪能していただきます。



《エレナ・ポヴォロツキー》  
アメデオ・モディリアーニ  
1917年、フィリップス・コレクション



《トリヴィアル夫人の肖像》  
アメデオ・モディリアーニ  
1916年頃、イム・オーバーシュテーク財団  
(バーゼル美術館に永久貸与)



《大きな帽子をかぶったジャンヌ・エビュテルヌ》  
アメデオ・モディリアーニ  
1918年、個人蔵

### 「モディリアーニ —愛と創作に捧げた35年—」開催概要

【展覧会名】開館記念特別展

モディリアーニ —愛と創作に捧げた35年—

【会期】2022年4月9日（土）～7月18日（月・祝）

【開館時間】10:00～17:00

\* 入場は16:30まで。月曜日休館（5/2、7/18を除く）。

\* 災害などにより臨時で休館となる場合があります。

【会場】大阪中之島美術館 5階展示室

【観覧料】一般 1,800円（1,600円）|高大生 1,500円（1,300円）|小中生 500円（300円）

\* 税込み価格。カッコ内は前売り（販売期間：2022年2月2日（水）～4月8日（金））  
及び20名以上の団体料金。

\* 企画チケットなど詳細は本展公式ホームページで順次お知らせします。

【公式ホームページ】：<https://modi2022.jp>

【主催】大阪中之島美術館、読売新聞社

【協力】国立民族学博物館

一報道に関するお問い合わせー

開館記念特別展「モディリアーニ」広報事務局（共同PR内）担当：三井

※在宅勤務時間もございますので、メールでお問い合わせいただけます。

E-mail. modi2022-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL. 03-6264-2382 / FAX. 0120-653-545

〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア10F

**E-mail : modi2022-pr@kyodo-pr.co.jp**  
**開館記念特別展「モディリアーニ」広報事務局行（担当：三井）**

**開館記念特別展「モディリアーニ—愛と創作に捧げた35年—」**

2022年4月9日(土)～7月18日(月・祝) 大阪中之島美術館

**【広報用画像申請書】**

展覧会の広報を目的として本申請書にてご申請いただいた記事・番組に限り、本展の広報用画像の使用が可能です。本展の会期中であっても別の記事・番組への転用はできませんので、その際には改めてご申請をお願いいたします。ご使用可能期間は本展会期終了までとなります。また、掲載に際しては、下記注意事項をご確認いただくとともに、本展終了後、データは速やかに破棄・削除してください。必要事項をご記入の上、E-mailでお申し込みください。E-mailでの送信が難しい場合、FAXでご連絡ください。(FAX:0120-653-545)

※ポスタービュアルに関しては、制作中です。ご希望の際は、完成次第、別途手配させていただきます。

<画像使用全般に関しての注意>

- 展覧会名、会期、会場名などの紹介のほか、作家名、作品名、制作年、所蔵先、④クレジットのキャプション表記を必ず掲載してください。
- 広報用画像は全図で使用してください。文字を重ねる、トリミングなど画像の加工・改変・部分での使用はできません。雑誌の表紙などへの使用をご希望の場合は広報事務局までお問い合わせください。
- WEB媒体にてご掲載の場合には、コピー・ガード（※右クリック不可）を施してください。コピー・ガード対応ができない場合には、72dpi以下もしくは400×400pixel以下の解像度にしてご掲載ください。
- 概要など確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で広報事務局までお送りいただきますようお願いいたします。
- 掲載・放送後は必ず、掲載紙誌・同録ビデオ・DVD等を本展広報事務局へ1部ご送付願います。WEBサイトの場合は、掲載時にURLとともにお知らせください。

希望	NO.	作家名・作品名	制作年	所蔵元	クレジット
	1	アメデオ・モディリアーニ《少女の肖像》	1915年頃	個人蔵	
	2	アメデオ・モディリアーニ《座る裸婦》	1917年	アントワープ王立美術館	photo: Rik Klein Gotink, Collection KMSKA - Flemish Community (CC0)
	3	アメデオ・モディリアーニ《髪をほどいた横たわる裸婦》	1917年	大阪中之島美術館	
	4	アメデオ・モディリアーニ《エレナ・ボヴォロツキー》	1917年	フィリップス・コレクション	
	5	アメデオ・モディリアーニ《ドリヴァル夫人の肖像》	1916年頃	イム・オーバーシュテーク財団 (バーゼル美術館に永久貸与)	
	6	アメデオ・モディリアーニ《大きな帽子をかぶったジャンヌ・エピュテルヌ》	1918年	個人蔵	
	7	アメデオ・モディリアーニ《若い女性の肖像》	1917年頃	テート	Photo © Tate
	8	アメデオ・モディリアーニ《緑の首飾りの女（ムニエ夫人）》	1918年	個人蔵	
	9	「モディリアーニ—愛と創作に捧げた35年—」ロゴ			
	10	AMEDEO MODIGLIANI ロゴ			

ご住所	〒		
貴社名			
貴媒体名/サイトURL			
ご所属/ご担当者名	ご所属	ご担当者名	
TEL/E-mail	TEL	E-mail	
掲載号／発売予定日	月号（　　月　　日号）／　　月	日発売予定	<input type="checkbox"/> WEBへの転載あり
チケット プレゼント	□読者プレゼントを希望する ※プレゼント内容・数量に関しては別途ご相談となります。 応募、当選者選定、発送は貴社でお願いできればと思います。編集部で対応できない場合は広報事務局までお問い合わせください。		
チケット 送付先	※上記ご住所と異なる場合は記載をお願いします。		

【本件に関するお問い合わせ】

開館記念特別展「モディリアーニ」広報事務局(共同ビル内) 担当:三井

※在宅勤務時間もございますので、メールでお問い合わせいただけると幸いです。

E-mail: modi2022-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL: 03-6264-2382 / FAX: 0120-653-545

開館記念特別展「モディリアーニ 愛と創作に捧げた35年—」【広報用画像一覧】

1 アメデオ・モディリアーニ《少女の肖像》



2 アメデオ・モディリアーニ《座る裸婦》



3 アメデオ・モディリアーニ《髪をほざいた横たわる裸婦》



4 アメデオ・モディリアーニ《エレナ・ボヴォロツキー》



5 アメデオ・モディリアーニ《ドリヴァル夫人の肖像》



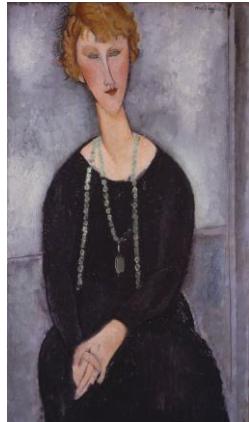
6 アメデオ・モディリアーニ《大きな帽子をかぶったジャンヌ・エビュテルヌ》



7 アメデオ・モディリアーニ《若い女性の肖像》



8 アメデオ・モディリアーニ《緑の首飾りの女（ムニエ夫人）》



9 「モディリアーニ 愛と創作に捧げた35年—」ロゴ



9-A



9-B

10 AMEDEO MODIGLIANI ロゴ

AMEDEO MODIGLIANI

10-A

AMEDEO  
MODIGLIANI

10-B

【本件に関するお問い合わせ】  
開館記念特別展「モディリアーニ」広報事務局(共同ビル内) 担当:三井  
※在宅勤務時間もございますので、メールでお問い合わせいただけます。  
E-mail: modi2022-pr@kyodo-pr.co.jp  
TEL: 03-6264-2382 / FAX: 0120-653-545